

■ 概況

10/27～11/2のNYMEX・WTI先物市場は86.53～90.00ドルの範囲で推移した。

11月3日は、前日、米国連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が、積極的利上げの継続を表明、景気後退に伴う石油需要の後退懸念から、反落した。12月限の終値は前日比1.83ドル安の88.17ドル。

週末4日は、昨日から一転、FRBの利上げペース減速の観測が広まり、また、中国のゼロコロナ政策の見直しによる行動制限緩和検討との報道もあり、大幅に反発した。12月限の終値は前日比4.44ドル高の92.61ドル。

週明け7日は、前日の中国のゼロコロナ政策に伴う規制緩和報道を巡り、楽観、悲観双方の観測が交錯したが、結局、反落した。90ドル回復に伴う利益確定売りや持ち高調整の売りも多かった模様。12月限の終値は前日比0.82ドル安の91.79ドル。

8日は、中国当局はゼロコロナ政策の継続を確認、中国经济の停滞懸念が拡大し、大幅統落した。また、翌日発表予定の米国原油在庫報告の積み増し観測、米国エネルギー情報局(EIA)の来年度石油需要予想の下方修正発表も値下がり要因。12月限の終値は前日比2.88ドル安の88.91ドル。

9日は、この日発表の先週末時点の米国原油在庫が市場予想を上回る積み増しとなり、昨日の中国のコロナ対策維持の発表の影響もあり、先行き石油需給の緩和予想から、3日続落した。12月限の終値は前日比3.08ドル安の85.83ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は、10月27日～11月2日の間、90.30～92.60ドルの

範囲で推移した。11月4日92.40ドル、7日93.70ドル、8日93.00ドル、9日90.50ドルで推移した。

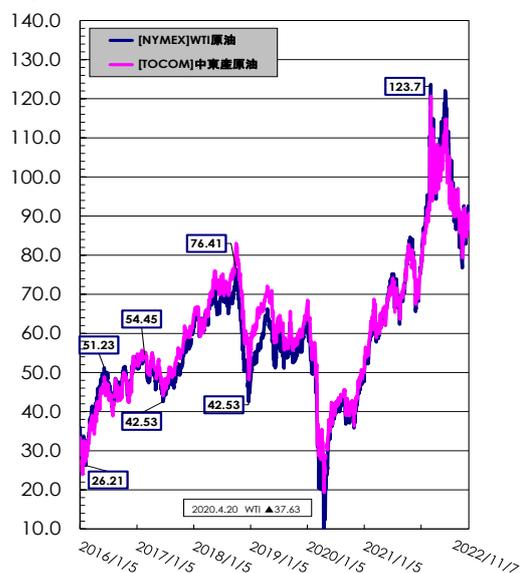
為替は、10月27日～11月2日の間、146.09～148.77円の範囲で推移した。11月4日148.34円、7日147.04円、8日146.55円、9日145.81円で推移した。

財務省が11月8日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、96.177円で、前旬比2,348円安、ドル建て105.79ドルで前旬比3.09ドル安、為替レートは1ドル/144.53円だった。

そのような中で、11月7日時点の価格は、ガソリンが前週比1.0円の値下がり、軽油も同0.9円の値下がり、灯油は11円の値下がり(18%ベース)であった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりに値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は168.1円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は36.3円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/30 ~ 11/5	2,901 ▲ 53	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.3 ▲ 1.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/5	10,713 ▼ -185	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/7	90.70 ▲ 4.24	▲ 10.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/7	91.79 ▲ 5.26	▲ 9.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	105.79 ▼ -3.09	▲ 28.91
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	96,177 ▼ -2,348	▲ 42,309
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	144.53 ▼ -0.67	▼ -33.13
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/7	148.04 ▲ 1.22	▼ -33.42

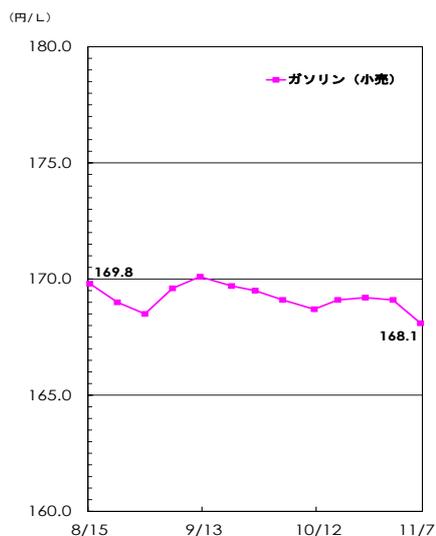
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/30 ~ 11/5	853 ▲ 62	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	753 ▼ -16	▲ -	
	輸出	"	114 ▲ 90	▼ -	
	在庫	11/5	1,589 ▼ -15	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/1 ~ 11/7	73.1 ▼ -0.6	▼ -3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/1 ~ 11/7	75.9 ➡ 0.0	➡ 0.0
		(TOCOM/中部)	11/7	72.9 ➡ 0.0	▼ -4.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/7	168.1 ▼ -1.0	▼ -0.9	

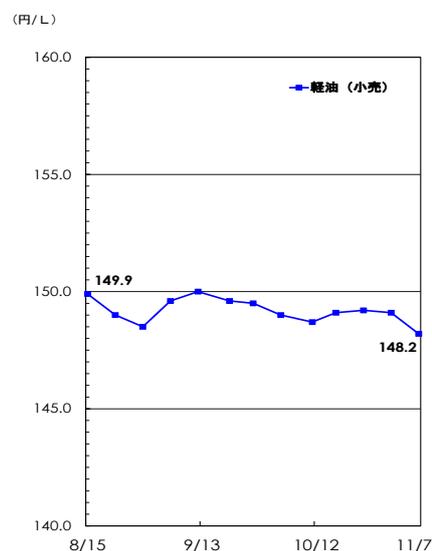
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

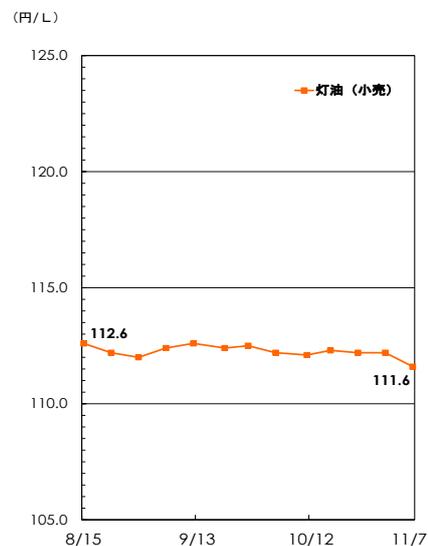
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/30 ~ 11/5	699 ▲ 43	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	606 ▲ 45	▲ -	
	輸出	"	147 ▲ 147	▲ -	
	在庫	11/5	1,335 ▼ -53	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/1 ~ 11/7	74.8 ▼ -1.1	▼ -3.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/1 ~ 11/7	77.3 ▼ -0.5	▼ -2.3
		(TOCOM/中部)	11/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/7	148.2 ▼ -0.9	▼ -0.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/30 ~ 11/5	263 ▲ 7	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	201 ▲ 71	▲ -	
	輸出	"	20 ▼ -29	▲ -	
	在庫	11/5	2,472 ▲ 42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/1 ~ 11/7	75.9 ▼ -1.3	▼ -1.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/1 ~ 11/7	81.5 ➡ 0.0	▲ 5.4
		(TOCOM/中部)	11/7	78.5 ▲ 1.5	▲ 1.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/7	111.6 ▼ -0.6	▲ 3.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(11月3日～9日)の石油先物市場は、引き続き不安定な動きを示し、週末90ドル台を回復したものの、先進国の利上げ継続、中国のコロナに伴う規制継続の動きによる景気後退懸念により、週明けから3日続落した。11月3日の88.17ドルから11月9日の85.83ドルと推移した。

11月9日発表の4日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間在庫情報によると、原油在庫は前週比390万バレル増と市場予想(100万バレル増)を大きく上回る積み増し、ガソリン在庫も市場予想ほど減らなかった。

EIAによると、11月7日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.4セント値上がりの1ガロン3.796ドル(148.3円/ℓ)と4週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.6セン

ト値上がりの1ガロン5.333ドル(208.3円/ℓ)と2週ぶりの値上がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、11月4日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比3基増の613基と2週ぶりの増加となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年10月30日～11月5日に休止したトッパー能力は31.1万バレル/日で、前週に対して6.4万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は290.1万klと、前週に比べ5.3万kl増加。前年に対しては20.5万klの増加。トッパー稼働率は78.3%と前週に対して1.5ポイントの増加、前年に対しては8.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてC重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.8%増、ジェット/2.5%増、灯油/2.9%増、軽油/6.6%増、A重油/4.9%増、C重油/14.1%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.3万kl減)。軽油の輸出は14.7万kl(前週比14.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、A重油が減少、その他の油種で増加した。前年比ではジェットが減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は75.3万kl(対前週2.1%減)と2週振りに減少した。ジェット6.2万kl(対前週5.9%増)、灯油20.1万kl(対前週54.6%増)、軽油60.6万kl(対前週

7.9%増)、A重油17.4万kl(対前週13.9%減)、C重油24.1万kl(対前週33.5%増)。

(単位:千kl)

	今週 (10/30 ~ 11/5)	前週 (10/23 ~ 10/29)	前週比	
ガソリン	753	769	▼ -16	(-2%)
ジェット燃料	62	58	▲ 4	(7%)
灯油	201	130	▲ 71	(55%)
軽油	606	561	▲ 45	(8%)
A重油	174	202	▼ -28	(-14%)
C重油	241	181	▲ 60	(33%)
合計	2,037	1,901	▲ 136	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月5日時点の在庫はジェット、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは158.9万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては3.5万kl多い。

灯油は247.2万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては28.5万kl少ない。

軽油は133.5万kl、前週差5.3万kl減。前年に対しては0.6万kl少ない。

重油は76.5万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては1.3万kl多い。

C重油は184.2万kl、前週差6.5万kl減。前年に対しては6.9万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (11/5)	前週 (10/29)	前週比	
ガソリン	1,589	1,604	▼ -15	(-1%)
ジェット燃料	943	875	▲ 68	(8%)
灯油	2,472	2,430	▲ 42	(2%)
軽油	1,335	1,388	▼ -53	(-4%)
A重油	765	736	▲ 29	(4%)
C重油	1,842	1,907	▼ -65	(-3%)
合計	8,946	8,940	▲ 6	(0.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月1日～7日のドル建て指標原油価格は前週比値上がりし、為替レートもわずかに円安で、元売会社の原油コストは、1.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額36.3円を加えたコスト上昇額37.3円に、補助金36.3円が支給されることから、次週(11/10～11/16)の元売会社の実質的な卸価格は1.0円の

値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月1日～7日の製品スポット市況は、10月25日～31日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(11/1～11/7)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/25～10/31)比で、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は1.3円の値下がり、軽油は1.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/1～11/7)に、前週(10/25～10/31)比で、ガソリンは1.5円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油1.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は横ばい、軽油は0.5円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/1～11/7)	前週 (10/25～10/31)	前週比
	レギュラー	73.1	73.7
灯油	75.9	77.2	▼ -1.3
軽油	74.8	75.9	▼ -1.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (11/1～11/7)	前週 (10/25～10/31)	前週比
	レギュラー	75.9	75.9
灯油	81.5	81.5	→ 0.0
軽油	77.3	77.8	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/1～11/7実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	→ 0.0	▼ -0.3
灯油	▼ -1.3	→ 0.0	▼ -0.7
軽油	▼ -1.1	▼ -0.5	▼ -0.8
A重油	▼ -1.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円安の168.1円、軽油も同0.9円安の148.2円、灯油も18%ベースで11円安の2,008円(1%ベースでは同0.6円安の111.6円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは1県、横ばいは1県、値下がり45都道府県だった。全国最安値は宮城県160.0円、その次は岩手県161.6円であった。他方、最高値は長崎県181.6円だった。値上がりしたのは大分県(前週比0.4円高)、横ばいは高知県1県、最も値下がりしたのは栃木県(同2.7円安)だった。

次回調査時(11/14)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/7)	前週 (10/31)	前週比	直近高値
レギュラー	168.1	169.1	▼ -1.0	08/8/4 185.1
灯油	111.6	112.2	▼ -0.6	08/8/11 132.1
軽油	148.2	149.1	▼ -0.9	08/8/4 167.4

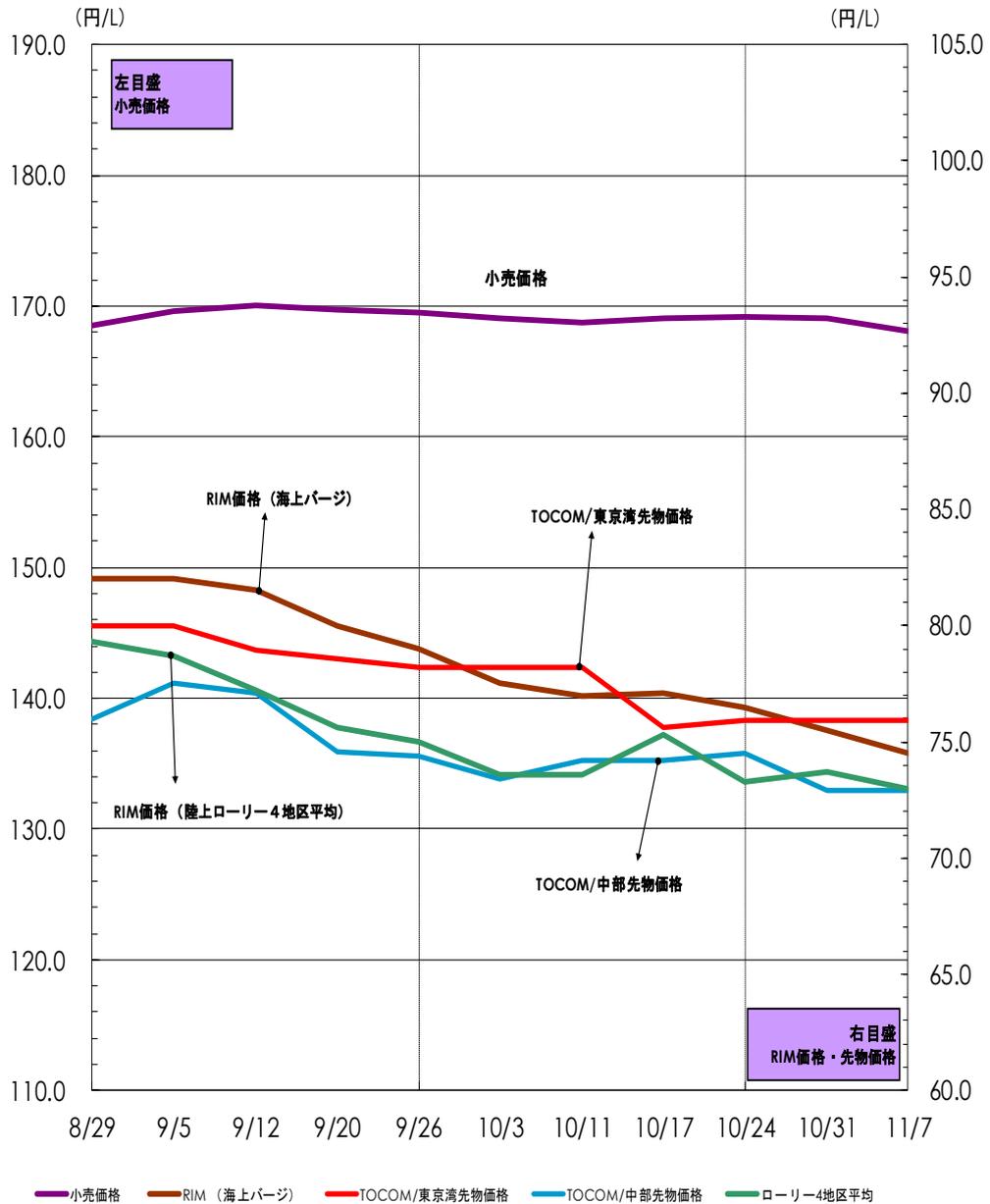
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/8/29 ~ 2022/11/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2022第32号) の公表は、11/18 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。